



筑波大学メールマガジン“ペデジャーなる”2018年2月－冬号－

－OB・OGと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 筑波大にも押し寄せた寒波／前名裕一
キャンパスに一面の銀世界が広がりました
2. 国立科学博物館／深作歩美
452万点超の展示物を見に行ってきました
3. つくばイオン駅前店、最後の日／寺尾侑子
1月31日に閉店したつくばイオン駅前店に行ってみました
4. つくばの街、どう変わった？／徳永翼
つくばの街の移り変わりをレポートしました
5. 大学の資金調達について考える／吉永真理
筑波大学×クラウドファンディング
6. 学食と私の4年間／助川まりえ
個人的な学食おすすめメニューとともに、大学生活を振り返ります
7. 卒業を間近に控えて／金久保響子
サークルに彩られた4年間

1 筑波大にも押し寄せた寒波



1月下旬、関東地方を大寒波が襲い大雪が降ったのは皆さんもご存じかと思います。関東地方の多くの地域で電車の遅延や運休、高速道路の通行止めなどが発生し雪の脅威を関東に知らせた先月の大雪。つくば市も例にもれず大雪が降り、筑波大学と東京駅を結ぶ「つくば号」の運休やつくばエクスプレスの遅延などの影響がありました。筑波大も授業の休講や図書館の開館時間短縮などが起き、大雪がいかに関東にとって脅威か実感しました。

私は少しの間外に出て、雪がどのくらい積もっているか見てみました。第三エリアや石の広場周辺を見てきましたが、2、3センチほどの地面が見えないくらいの雪が積もっており、関東でこれだけの雪が降るのかと驚きを隠せませんでした。また、私は雪の多い地域の出身であるため雪を見慣れてはいましたが、普段雪のあまり降らないつくばで見る雪は新鮮でした。筑波大のキャンパスに一面の銀世界が広がり、雪を見たことがないであろう留学生が遊んでいる姿が見え、晴れた日とは違った筑波大の様子がうかがえました。



この写真は、雪が降った1月22日の18時ごろに第二エリアから見た石の広場の様子です。芝生も一面の雪が覆っています。

雪の影響は22日以降も続きました。寒さが収まらなかったために雪が溶けず、残った雪や凍った雪が道を覆いつくして歩きにくい状況になりました。雪には慣れているはずでしたが、つくばに住んでから雪をほとんど見たことがなかったために雪道を歩くのは苦勞しました。また大学内の循環バスも残った雪の影響で大幅な遅れが続いていました。

関東地方に多大な悪影響をもたらした今回の大雪。確かに雪が降ると電車が止まるなどして迷惑に思う人は多いでしょう。ですが、晴れた日とはまた違う景色を見ることができるのはある意味で雪の良さだと思います。皆さんも、雪が降ったら街に出て普段とは違う景色を楽しんでみてはいかがでしょうか。



2 国立科学博物館

寒い日が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今回は先日行った国立科学博物館（東京都台東区）についてご紹介します。

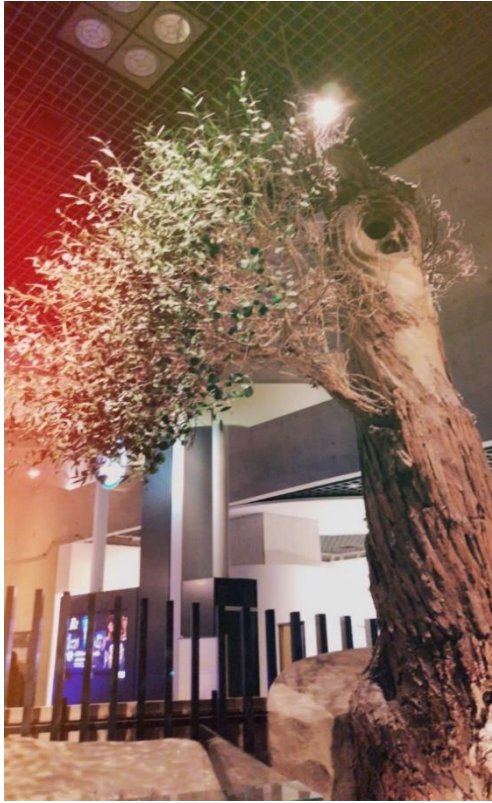
筑波大学は学生の教育研究活動の場を広め促進するため、「国立科学博物館大学パートナーシップ」に入会しています。なので、学生証を見せれば、「国立科学博物館」、「筑波実験植物園（つくば市天久保）」、「自然教育園（東京都港区）」などに無料で何度でも入れます。また、国立科学博物館の場合、企画展は無料、特別展は620円引で入ることができます。「学生のうちにこの制度を利用しなければもったいない！」と思い立ち、国立博物館を訪れることにしました。

国立科学博物館は大きく日本館と地球館に分かれており、それぞれ地下3階～地上3階まであります。日本館には日本列島に関する展示、地球館には地球の多様な生き物に関する展示や地球史、地球環境などに関する展示があります。私は生き物についての展示が気になったので、地球館を見ることにしました。

印象に残ったのは、1階の「地球史ナビゲーター/地球の多様な生き物たち」です。海洋生物から陸上生物、乾燥地域・鉱山地域に適応する生物まで様々な生物の標本が展示されていました。私が個人的に興味を持った生き物についてご紹介します。



ユキヒョウです。ヒマラヤなどの鉱山に分布します。白と黒の毛皮が雪山での保護色になっています。



コトカケヤナギです。西アジアから中国の乾燥地域に分布しています。1000年以上生きます。

もう一つ、私が印象に残ったのは、地下1階の「地球環境の変動と生物の進化」です。ティラノサウルスやトリケラトプスなどの標本が展示されており、とても興奮しました。



トリケラトプス



ティラノサウルス

最後に「シアター360」を見ました。「シアター360」とは、直径 12.8m（実際の地球の 100 万分の 1 の大きさ）のドームの内側すべてがスクリーンになっていて、その中のブリッジに立ち、映像を見るというものです。360° 全方位に映像が映し出され、独特の浮遊感などが味わえます。映像は月ごとに変わります。私たちは「マントルと地球の変動-驚異の地球内部-」と人類の旅-ホモ・サピエンス（新人）の拡散と創造の歩み-」を見ました。「マントルと地球の変動-驚異の地球内部-」では地球内部に潜り込んだという設定だったため、プレート運動をイメージしやすく工夫されていました。「人類の旅-ホモ・サピエンス（新人）の拡散と創造の歩み-」では、化石研究の成果に基づいて復元された猿人・原人や、極寒の地への進出を可能にしたマンモスの骨の家、海洋上の島々への進出に使われた古代カヌーを映像で見ることができ、とても印象深かったです。

国立科学博物館はとても 1 日ですべての展示を見ることはできませんでした。私はこの春で卒業するため、入館無料の特典を利用できなくなってしまいます。卒業研究がひと段落したら、また訪れようと思います。

生命環境学群生物資源学類 4 年 深作歩美

3 つくばイオン駅前店、最後の日



2018 年 1 月 31 日水曜日にイオンつくば駅前店が閉店となりました。1965 年に開店してから 33 年目でその幕を下ろした営業最終日に、お店を訪れました。

毎年 4 月の宿舍入居の時期には、イオンと宿舍を結ぶ無料バスが運行するなど、筑波大生ともゆかりのあるスーパーだったイオン。私も、入学してすぐに自転車や家具を買うのにお世話になりました。また、6 時限目の後に毎週火曜日の火曜日に行くため、自転車をシャカシャカと漕いだり、友人たちと鍋の買い出しに出かけたりしていたのもイオンでした。

そもそも、イオンつくば駅前店は国際科学技術博覧会（つくば万博）が開催された 1985 年（昭和 60 年）に、当時はジャスコつくば店として開店しました。店舗面積は約 6300 m² で、2 フロアにまたがった店舗では食料品だけでなく、衣類や日用品、生活家電をそろえていました。

1月31日、私が訪れたのは18時前後。完全閉店まで残り2時間を切った頃でした。閉店が決まってから、イオンでは閉店セールが行われており、家電や自転車なども安売りしていたからか、店周辺では大きなオープンの箱を抱えて歩く女の人も見かけました。

入り口では、従業員の方が「本日が最終営業日となります。お越しいただきありがとうございます。」と、来店するお客さんに声をかけていました。よく見ると、普段見かけるエプロンや白い長靴姿の従業員だけではなく、スーツをびしっと決めた男性も店頭に立って挨拶をしています。また、店内放送でも閉店と感謝を伝えるメッセージが、繰り返し流れ続けていました。

入店してみると、品物は閉店に向けて徐々に減らしていたのか、食料品売り場では全体の棚の1/3程度が空になっていました。品ぞろえが豊富だった野菜コーナーも葉物の野菜はすでにほとんどなく、日持ちする人参やジャガイモなどが目立っていた様子でした。ただ、品物の数に反して、店の中はたくさんのお客さんでにぎわっていました。チーズや刺身などが、補充された瞬間に人々の手へと渡っていきます。牛乳の減り具合はそれぞれはあっという間で、テレビでよく見る、オイルショック時にトイレットペーパーがあっという間に買われていく様子を思い出しました。人だかりは店内のあちこちで見られました。

お店の非日常感とは反対に、レジはいつも通りのレジでした。私が1枚3円のレジ袋を購入し、WAONカードの有無を聞かれている間にも、店員さんは手際よくかごからかごへ野菜や肉や、1袋98円で安売りだったパスタなどを移動させます。支払いを済ませた後、何か特別な言葉があるのかと少し期待もしましたが、レジ係の店員さんはあっさり、次の人の買い物かごへと手を伸ばしていました。あまりのあっけなさに、勝手にがっかりもしましたが、よくよく考えるとこれが「ふつう」のことなのかもしれません。だってスーパーは本来非日常ではなく、私たちの日常と共にあるわけですから。少しの寂しさと大量の食料品とともに、私はスーパーを後にしました。さよなら、イオンつくば駅前店。

1月31日には、イオンだけではなく、「クレオ」のほかの専門店も同時に閉店しました。8つの専門店のうち6店は隣接する「キュート」へと移転、2店が営業終了となりました。「クレオ」の後継テナントはいまだ決まっておらず、つくば市が公共施設などの導入も含めて、今後の在り方を検討しているそうです。

社会・国際学群国際総合学類4年 寺尾侑子

4 つくばの街、どう変わった？



先日、クレオの閉店セールに行きました。カバンを安売りで買えたのはうれしい限りですが、友朋堂書店や西武百貨店など往時のつくばを彩った施設の撤退が相次ぐ中での閉店は、またしても悲しいニュースとなりました。とはいえ、明るい話題も聞こえます。つくば駅前に地上 5 階建ての商業施設の建設が報じられているほか、筑波大学内にもスーパーなどが入る商業施設とアリーナの建設が予定されています。今回は、ダイエーの閉店（2002 年）や T X の開通（2005 年）を間近で見えてきた自宅通学生の筆者がつくばの街の移り変わりをレポートします！

● T X 開通で増加したのは……？

つくばエクスプレスの開通は 2005 年。千葉や埼玉からのアクセスは向上し、自宅通学をする学生は格段に増加したといわれています。それと同時に、研究学園駅の周辺には大型店舗が大量進出してきました。イーアスつくば（2008 年オープン）は 200 店舗ほどが入る大型ショッピングセンター。大学周辺からも自転車で 10～20 分ほどで、バイト先としても人気があります。ほかにも同駅周辺には、つくば市役所の新庁舎（2010 年）や、コストコ（2013 年）なども。

その一方、つくば駅の南にあった「電気街」は壊滅と言ってもいい状況になっています。かつて、石丸電気やコジマなどが揃った一角もいまやその影がありません。研究学園駅周辺にケーズデンキ・ノジマ・ヤマダ電機などの家電量販店が揃って進出したことや、T X の開通で秋葉原へのアクセスが容易になったことがその原因でしょう。

● 大学周辺にも変化

筑波大学周辺の景色も少しずつ変化してきています。大学ができてすぐに建てられた古いアパートが取り壊され、新しいアパートやマンションが増えてきました。また、さすが学生街というだけあって、飲食店の入れ替わりも激しいようです。最近だと、Junk 亭（2017 年）やふくむら（2013 年）が惜しまれながら閉店しています。

社会工学類の学生の調査によると、大学周辺の居酒屋の数は 2003 年に 174 店あったものが 2016 年に 130 店に減少している¹ そうですから、もとの数が減少しているということもあるとは思いますが、ダッチベイビーが人気の jicca（2017 年）やアフリカ料理を提供する

¹ http://toshiv.sk.tsukuba.ac.jp/jisshu/jisshu1/report/2017/g6_sustain/background.html

シダモ（2016年）など新しい店も日々オープンしています。

たまには、こういった景色の移り変わりを考えるのも感慨深いですね。自分が卒業したあとのつくばはどうなっているのか、今から楽しみです。

日本語・日本文化学類3年 徳永翼

5 大学の資金調達について考える



先月、筑波大学では第一エリアの屋根が崩落しました。1B棟と1C棟を繋ぐ、学生がよく使用する通路で起きた事故。原因の一つに、文科省から大規模な施設の修理費が十分に貰えない、という大学の費用不足がありました。お金が無いからといって危険のある施設を放置するのはいかがなものかと思いましたが、それと同時に、大学の財政の厳しさを垣間見た気がしました……。

その後、大学の財政がどうなっているのか気になり調べていると、興味深いものを発見しました。それは、

「筑波大学×クラウドファンディング」

です。これは、大学と企業が提携し、今までに無い方法で研究資金などを調達する取り組みです。「クラウドファンディング」とは、インターネットを通じて一般の人や組織からお金を集めることで、支援者はお金を寄付する代わりに、そのプロジェクトが成功したときに、プロジェクトに関する「物」や「サービス」を得ることができます。

筑波大は2016年度に、国立大学で初めて、クラウドファンディングのプラットフォームを提供する「READYFOR株式会社」と提携を開始しました。「筑波大学×クラウドファンディング」と称して様々な取り組みを行い、16～17年の2年間で「図書館の資料購入費の調達」や「筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト」など、7つの計画が実施され、その全てで目標金額を達成。総額約3790万円を支援者から募りました。正直、寄付のみでこれだけの額が調達されたことに驚きました。



筑波大と READYFOR の提携による
プロジェクト
(READYFOR 公式 HP より)

大学のこのような取り組みに感心した訳ですが、世界では大学への寄付行為は日本に比べ、社会により根付いているようです。2016年、アメリカの全大学への総寄付額が410億ドルに達したというニュースもありました。ハーバード大学は16年、日本円にして約1100億円の寄付金を集めました。一方、日本の大学、例として筑波大学では、16年度の収支計画によると、「産学連携等研究収入及び寄付金収入等」は全体の約1割にとどまります。アメリカでは大学の裏に強大なスポンサーが付いており、大学自体がある種の大企業のようになっていることを考えると、一概にこれを見習えとは言えませんが、日本の大学でももう少し寄付金に頼れる部分があるのではないかと感じます。

冒頭に上げた屋根の崩落の例などから、筑波大のような大きな大学の経営は厳しいのだらうと思います。そして、経費を使う優先順位として一番虐げられるのは、より高度な研究のための費用やより幅広い資料を揃えるための費用など、「無くても特に困らない、0をプラスにするための」費用なのだと思います。施設が壊れては、研究もできたものではなく、結局優先されるのは「マイナスを0にするための」費用です。しかし、それでは大学で本当にやるべきことができなくなるのではないかと危惧します。

「0をプラスにするための」費用の調達方法として、クラウドファンディングは今後より広まると予感します。実際、筑波大に続き、東京藝術大学や近畿大学、法政大学が企業との提携を開始しました。さらに、2013年には研究費獲得に特化したクラウドファンディングプラットフォーム「academist」が設立。京都大学や早稲田大学など、多くの大学がこのサイトを利用しています。筑波大では、「TFF(筑波フューチャー・ファンディング)」などで前からクラウドファンディングが盛んに行われてきた印象が強いですが、企業との提携を通して今後より大きな規模での資金調達が実現していくことを願います。

私が考えるクラウドファンディングの必要性や面白さをお伝えしたく、今回筑波大の取り組みを紹介させていただきました。今後もどのようなプロジェクトが立ち上がるのか楽しみにしつつ、自分も将来、資金調達に困った際に利用できるツールとして頭に入れておこうと思います。

「筑波大学×クラウドファンディング」↓

https://readyfor.jp/university_of_tsukuba

生命環境学群生物学類 2年 吉永真理

6 学食と私の4年間



私事ではありますが、つい先日卒業論文との闘いを乗り越え、筑波大学での4年間もついに、残すところあとひと月ほどとなりました。そこで今回は、おそらく誰も興味がないであろう私の個人的な学食おすすめメニュー・ベスト3を紹介しながら、長いような短いような4年を振り返ってみようと思います。

○第3位 「なすとベーコントマトソース」粉とクリーム（三学）470円



まず第3位は、三学粉クリのパスタ「なすとベーコンのトマトソース」です。写真はあんまりおいしそうじゃないですが……。出来たてだと、セットでついてくる白いパン（画像右側）がホカホカでおいしいのでいつも慌てて最初に食べていました。

大学に入って一人暮らしを始めると、食生活が変化して、それまで苦手だったものが好きになったりすることがよくあると思うのですが、私にとっては「なす」がその代表例です。私も大学進学と同時に一人暮らしを始めましたが、慣れない自炊は全く続かず、たくさん外食をするようになりました。そこで初めて、なすのおいしさに気付いたのです。中華料理のなす、居酒屋のなす料理（余談ですが、居酒屋の料理には人々に食材のおいしさを気付かせる効果がある気がします。）など、色々ななす料理と出会い、今では万能な食材として絶対の信頼を寄せるまでになりました。もうなすのない人生は考えられません。このように、好きな食べ物が増えたことは、私の大学生活の中でも一番の収穫ではないでしょうか。

○第2位 「チンジャオロース定食」 二学食堂 460円



そして第2位は、二食の「チンジャオロース定食」です。この定食は水曜日の日替わりメニューで、毎日授業があった頃は、水曜だけは必ず二食を訪れるようにしていました。サークルの後輩に「先輩、いつもチンジャオロース食べてますね」と言われたことも今では良い思い出です。

思い出です。

私はこのチンジャオロース定食の、どこか懐かしいおふくろの味的な部分が好きなのだと思います。若干量が少なめでおかずとの配分が難しいご飯と、ちょっとしょっぱい炒め物、そして素朴なお味噌汁という学食ならではのコンビネーションによって、誰かが作ってくれる温かいご飯の優しさが身に染みて、心がほっこりするのです。そんなとき思い出すのは、実家で食べる炊き立てご飯のおいしさです。外食をしても炊き立てのご飯はなかなか食べられません。炊き立てご飯のおいしさは、家族の愛情の贈り物だと改めて感じます。

○第1位 「とろろ丼定食」 三学フードコートうどん・そば店 480円



堂々の第1位は、三食名店街のおそば屋さんの「とろろ丼定食」です。これはざるそば・ざるうどん・温そば・温うどんのどれか一つに、とろろ丼（画像左側）が付いてくるセットです。

この定食を1位に選んだ理由は単純に、とろろもそばも好物だからです。私は、サークル

の練習のお昼休憩にこの定食をよく食べていました。三学の教室を借りて練習することが多かったので、お昼は自然と仲間たちと学食でご飯を食べるのです。たわいもないおしゃべりをしながら仲間たちとご飯を食べる時間が、この4年間の中で私の一番好きな時間でした。この4年間、ろくに自炊もせず、元気に生活してこられたのは、大好きな人たちとおいしいご飯を食べる時間がとても楽しかったからだと思います。学食での何でもないお昼休みの時間はまさに、私の青春でした。

大学生活の4年間は、私に食の喜びを教えてくださいました。私の筑波大学での4年間をこんなにも豊かなものにしてくれた学食と、仲間たちに心からの感謝を。そしてこれから先も、この喜びを忘れずに楽しく生きていくことが私の人生の目標です。

7 卒業を間近に控えて



立春とは名ばかりの寒さが続いています、読者の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。3月と言えば別れの季節。4年生である私もこの3月に筑波大学を卒業します。筑波大学で生活した4年を振り返ってみると、サークルばかりしていた4年間でした。サークルを中心にした大学生活が理想的な大学生活かは分かりませんが、とても密度の濃い、有意義な4年間であったと私は感じます。今回の記事では、私事ではありますが、私の4年間の大学生活を振り返りたいと思います。

2014年4月。桜が咲き誇る中、私たちは入学しました。私は一の矢宿舎に入ったのですが、入学式当日に一の矢宿舎から学生会館まで歩き、筑波大学の広さが身にしみたことを今でも覚えています。最初の1年間は、両親と暮らしていた高校生るときとは違う、一人暮らしの自由な生活の楽しさを覚えた1年だったという印象です。しかし、履修する授業も自由であり、どの授業を取ればいいのか、どんなことを勉強していきたいのか悩んだ1年でもありました。

1年生の最後から、私はサークル活動にどっぷりはまっていきました。私はミュージカルサークルに入ったのですが、1年生の最後のほうから活動が本格化し、毎日サークル活動を行うようになりました。最初に行ったのは新歓活動です。私たちのサークルでは、新歓活動を新2年生が中心として行います。新歓活動といつものサークル活動が同時平行で行われ、1年生におごるためにお金もなくなり、かなり苦労した2ヵ月でした。しかし、苦労した末に私たちのサークルに入ってくれた多くの1年生は、彼らが3年生になった今でも1番かわいい後輩だなと感じます。運営に携わることなく、先輩の後ろに隠れてただただ楽しむだけだった1年生の頃から一変し、新歓活動から始まり、2年生ではサークル活動の酸いも甘いも経験した、という印象です。

そして、2年生の秋学期、なんと私はサークルの責任者になってしまいました。今思うと、このときに私の4年間はサークルで終わると決まったようなものでした。団体の長というものにそれまで縁のなかった私は当時だいぶ戸惑いました。サークルにとって本当に私が責任者で良かったのか今でも疑問ですが、私にとってはとても良い経験になりました。責任者をして1番の収穫は、同期とぶつかり合い、なんとかサークルを運営していく中でそれま

でよりもお互いを知る仲になれたということだと思います。

4年生の始めは教育実習や院試の勉強、卒論のためにサークルからは一時遠のいていました。4年の夏、(本来ならば卒論に勤まなければならない時期に)私は公演の演出を行うことにしました。演出というのは、舞台の構成を一から考え、全ての役職に仕事を下ろす役職です。とっても楽しかった!! というのが演出をしての感想です。演出をしたおかげで卒論の質が下がったというのは紛れもない事実ですが……。でも後悔はしていません。こんな経験は二度とできないと思います。

演出した公演を11月に終え、卒論も無事提出し、現在は3月に控えた私たち4年生の卒業公演に向けて準備を進めています。読者の皆さまがこの記事を手に取る頃にはもう公演は終わっているかもしれません。私は大学4年間の締めとして、この公演で全ての力を出し尽くしたいと思っています。

私は筑波大学大学院に進学します。大学院での生活は勉強や研究を中心にするためにも、サークルを中心にした生活はこの3月でしっかりけじめをつけようと思っています。卒業式がやってくるまで、この4年間どんなことを学んだのか、社会に出るまでに残されたあと2年間は何をしたいのか、よく考えながら過ごそうと思います。

私の4年間で語っただけの記事になってしまいましたが、読者の皆さまの大学生活を振り返る機会としていただければ幸いです。ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。

人文・文化学群比較文化学類4年 金久保響子



🌸 『編集後記』

今年度最後となるペデジャーなる冬号、お楽しみいただけましたでしょうか。今号も、冬らしい大雪の話題に始まり、移り変わるつくばの街や大学の様子、卒業を控えたメンバーのエッセイなど、様々なつくばの「今」を皆様にお伝えできたのではないかと思います。

私自身、4月からは大学を卒業してよいよ社会人になる訳ですが、この「ペデジャーなる」の名前の由来でもあるペDESTリアンデッキの上り坂を、ひいひい言いながら自転車で駆けのぼっていた日々が既に懐かしく、少し寂しさも感じます。

大学以外に何もなく、どこに行くにも自転車が欠かせないつくばの街ですが、私はこの

街で4年間を過ごし、ここに自分の居場所を見出すことができた気がしています。OB・OGの皆様にもそんな温かな学生時代の思い出がきっとあることでしょう。

筑波大学の広大な敷地を一つに結ぶペDESTリアンデッキのように、このペデジャーなるが皆様の素敵な青春時代の思い出と、つくばの「今」とを繋ぐ橋渡しとなることを願っています。

最後になりましたが、この一年間、編集長として至らない私を支えてくださった事業開発推進室の皆様、編集部仲間たち、そしていつもペデジャーなるを応援して下さる読者の皆様に心からお礼を申し上げます。来年度以降も、つくばの「今」をお届けするペデジャーなるを楽しみにお待ちしております。

それでは、皆様に素敵な春が訪れますように。

人文・文化学群比較文化学類4年 助川まりえ

筑波大学のいろいろな取組みのご紹介

<「筑波大学カード」について>

筑波大学公式クレジットカード「筑波大学カード」新規入会者募集中です！

平成29年12月1日から新規入会利用キャンペーン中！！



新規入会 & 利用で
最大 2,000円分
VJAギフトカード
プレゼント

キャンペーン期間 入会期限：平成30年5月31日まで / 入会利用期限：平成30年6月30日まで

インターネットからもお申込みいただけますので卒業生の皆様もぜひご利用ください！

* 筑波大学カードをご利用の場合 *

- ・利用金額の一部が筑波大学基金へ寄附
- ・サービス協力店舗での優待利用可能

詳しくは、<https://alumni.tsukuba.ac.jp/cashcard.html>

をご覧ください。

<筑波大学×ボルドー大学オリジナルワイン シャトー・クーアンについて>



本学とボルドー大学の連携協定締結を記念して、一昨年よりボルドー大学の提携研究機関であるフランス国立農業研究所（INRA）で醸造された希少なワイン「筑波大学×ボルドー大学オリジナルワイン」の特別ボトルを制作・販売しています。

今年度は、最上級のぶどうを使用した“シャトーの顔”というべきファーストラベル「シャトー・クーアン赤 2014」及び「シャトー・クーアン白 2014」を限定販売します。

2014年は、ぶどうの出来が良く、ワインの品質が良いとのことで、今回の商品はプレミアム付きの逸品です。

特別ボトルのオリジナルラベルは、本学芸術系 原 忠信准教授がデザインしたものです。

好評につき、「シャトー・クーアン白 2014」「シャトー・クーアン 2014 赤・白セット」が完売いたしました。


また、本商品は限定販売のため、現時点でシャトー・クーアン赤 2014 の在庫本数も少なくなっておりますので

是非お早めに下記購入サイトよりお買求めください。

ご購入に当たっては、株式会社カクヤス「購入サイト」からご購入いただけます。

新規にご購入される方は、同社の会員登録（無料）が必要となります。

購入サイト：<http://www.kakuyasu.co.jp/news/feature/tsukuba/>

 古本によるご寄附のお知らせ

古本による寄附とは卒業生、教職員、在校生、保護者の方々からお送りいただいた本の買取金額が、筑波大学基金へと寄付されるプロジェクトです。不要になった本を段ボール箱に詰めて申し込み（電話またはWEB登録）をするだけ。ご指定お時間に宅配業者がご自宅まで取りに伺います。**5点以上ならば送料無料です！**




期間中は通常より買取額が10%UPとなるため、筑波大学基金への寄附額が多くなります。

*本棚をすっきりさせたい


*いらなくなった本を活用させたい


など本の処理にお困りのかたはこちら↓


<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/howto/oobook/>


 筑波大学 公式ホームページ: <http://www.tsukuba.ac.jp/>

 筑波大学 facebook: <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>

 筑波大学交流広場「KUTTUK ba」: <https://alumni.tsukuba.ac.jp/>
(筑波大学交流広場／筑波大学生涯メールアドレス 利用登録募集中!)

 編集・発行:「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

 デザイン・配信作業: 国立大学法人筑波大学事業開発推進室

 ご意見・問い合わせ先: 国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

Copyright © 2014 University of Tsukuba. All Rights Reserved.